

「エマオへの道」

ルカによる福音書 24章13～35節

聖学院大学 欧米文化学科長・欧米文化学科教授 バーガー デービッド

先週の水曜日の全学礼拝はイースター、つまり、復活祭を覚える特別な礼拝でした。イースターにはイエス様が死んでいたのに生き返りました。つまり、神様の力で復活させられたことをお祝いする日ですね。

イエス様は復活させられた後にいろいろな人の前に現れました。今朝読んでいただいた聖書の箇所はイエス様が現れた話の1つで、「エマオへの道」と呼ばれています。この話はちょうどイエス様の復活の日に起こりました。

イエス様の復活がどこで起こったか知っていますか？中東のイスラエルのエルサレムという町ですね。エルサレムは世界で最も古い都市の1つで、少なくとも7000年前から人が住んでいると言われています。エマオという場所はどうでしょう。たぶん聞いた事ない人が多いかと思います。聖書にはエマオは村だったと書かれています。今はその場所はないので、誰もエマオという村がどこにあったか知りません。でも聖書にはエルサレムから60スタディオン離れた所にこの村はあったと書かれています。スタディオンとはなんでしょうね。調べてみたら60スタディオンはだいたい11キロだそうです。11キロという距離を歩いた事がある人いますか？数年前、聖学院大学のスポーツデイは東京の駒込まで歩くというイベントでしたが、多分ほとんどの学生がそれまでそんな距離を歩いたことがなかったと思います。でもこの話があっただいたい2000年前は車もないし、電車もないし、歩くことがいろんな所に行く方法でしたね。

この中で多くの人は浦和駅を毎日通過していると思いますが、私はその浦和駅から乗ります。調べてみたら、宮原駅から浦和駅までちょうど11キロでした。これはエルサレムからエマオと同じ距離です。皆さんは宮原駅から浦和駅まで歩いたことないでしょう？電車だと10～12分ですが、歩いたら何分かかりますか？私はスポーツジムのウォーキングマシンで1キロをだいたい11分で歩くので11キロ歩くとしたら2時間以上かかることになります。

さて、この話の2人の弟子はエルサレムを出発して、約2時間歩くつもりでエマオへ向かいました。そしてそれは罪のないイエス様が十字架で殺されてから3日たってちょうど復活された日でした。この3日間はイエス様に従っていた人たちにとって人生の中で最悪、一番ひどい3日間だったと思います。みんなそのことばかりを話していました。

とにかくこの2人も歩きながらこの3日間に起こったことをいろいろ話していました。そこにイエス様が現れて一緒に歩き始めました。でもこの2人は誰と一緒に歩いているのかわからなかったと聖書に書かれています。2人はこの人は偶然に一緒の方向に歩いている知らない人だと思っていました。

イエス様がこの2人になんのことを話していたのかと聞いたとき、2人はその質問が信じられませんでした。

した。エルサレムでこの3日間に起こった事を知らない人がいるなんて信じられなかったからです！「このちょっと変わっている人は誰だろう？」とたぶん2人は思ったと思います。「この人は今までどこにいたんだろう？月かどっか宇宙の知らない所にいたのかな？」と思ったわけです。

そこでこの2人はこの人に起こったこと全部を話しました。聖書の話はまだ知らない人はこの話の内容がわからないと思いますが、2人はいわゆるイースターの朝に起こった話をしたんだと思います。それはイエス様に従った婦人達や弟子達がイエス様のお墓に行ったとき、お墓は空っぽでそこにいた天使がイエス様は生き返ったのだと言ったことです。でもこの2人はこの話をあまり信じていないように言っていたのでイエス様は少し怒りました。どうして分からないのかと思ったからでしょう。イエス様が神様の子どもであることが弟子達にはよく分からなかったので、イエス様はびっくりしてイライラした訳です。

そこでイエス様はエマオへの道を歩きながら、この2人の弟子が分からない事を全部話しました。話す事がいっぱいあったのでエマオに着くまでイエス様はずっと話していた様です。この2人はイエス様がおっしゃることにとっても感動したので、イエス様から離れたくないと思いました。そこでイエス様に家に泊まってくださるようお願いしました。そしてこの2人は何をしたと思いますか？11キロも歩いたら皆さんだったらどうですか？多分すごく疲れて休みたいと思うでしょう。それからお腹も空いているだろうから何か食べたいと思うでしょう。この二人もそう感じてイエス様と一緒に食事をしました。

それではどうやってこの2人はこの見知らぬ人がイエス様だと気がついたのでしょうか？実はこの2人はイエス様と一緒に食事をしている時に初めてこの人がイエス様だと気がつきました。面白いですね。キリスト者にとって食事を一緒にすることがとても大切なのは知っていますか？この2人は「パンを裂いてくださった時にイエスだと分かった」と言っています。聖書ではよくパンという言葉を使います。イエス様が住んでいた所ではパンがお米の代わりに主食だったので、よくパンを食べました。だからキリスト教の教会で一番大切な食事である聖餐の時にパンを使います。聖餐とは何かを知らない学生がいます。聖餐とは教会でキリスト者が小さく切ったパンと小さいカップに入ったブドウジュースを飲む事です。教会の礼拝に出席した人は見た事があるかもしれません。日曜日にこのチャペルが聖学院教会の礼拝堂として使われていることを知っている学生が多いと思いますが、今座っている席の前にある小さな穴は聖学院教会の聖餐式のブドウジュースのカップを入れるためにあります。

ローマカトリック教会の礼拝はミサと呼ばれていますが、ミサの中心はこの聖餐式です。聖学院教会のようなプロテスタント教会はちょっと違いますが、毎週聖餐式を行う教会もあれば、年に数回しか行わない教会もあります。そしてすべての教会の聖餐式はイエス様がエマオへの道で弟子達に説明したことを覚えているためにします。それはイエス様の死と復活の意味を覚えることです。

今では聖餐では本当の食事はしませんが、約2000年前の最初のキリスト者は実際に聖餐の時に食事を一緒にしていたそうです。私の教会では聖餐式の他に毎月最初の日曜日やイースターのような特別な日曜日には一緒に食事をして、交わりの時を大切にしています。

パンを分けて一緒にいただく聖餐式と食事は教会にとってとても大切なことです。一緒にパンを分ける、つまり一緒に食事をする時、イエス様の存在を感じます。教会はイエス様を中心とした家族のようなものです。同じく聖学院のようなキリスト教学校も家族のようなもので、イエス様はこの家族の世帯主です。そして皆さんもイエス様の家族の大切な1人です。

今度、教会の礼拝に出席する時、もし聖餐式があったら、それをいただいているキリスト者がパンを食べてブドウジュースを飲みながら、イエス様の死と復活の意味、またはイエス様の存在は2016年にも私たちと共にあることを思いながら、いただいていることを思い出してください。

2016年4月22日 聖学院大学 全学礼拝